

●京都府総合見本市会館

前回検証結果	継 続 ・施設の特徴を生かした営業戦略により、更なる効果的な利活用を図ること。 ・老朽化による施設改修も見据え、公的な負担の軽減の観点から、中長期的な戦略を検討すること。
対応・改善策実施状況、取組の成果	・リピーターの利用が大半を占める状況にあって、常に利用者の満足度を確認するための調査（アンケート）を実施するとともに、新規や拡大利用を図る新規催事誘致等奨励事業制度の会場使用の誘導方策などにより、会館の一層効果的な利活用や会場使用料収入の増に繋がっている。（令和7年新規利用11件・拡大利用15件） ・会館の運営は、行政等からの負担は無く、独立採算を堅持。会場使用料は、開館以来変更せず、同様の施設との比較では、最も安価な料金。光熱費も利用者からの負担金を値上げせず、事実上財団が一部を負担することで、更に安価な料金を提供し、京都の産業等の振興に寄与している。 ・築38年を超える公共施設で、経年劣化等大規模修繕は設置者、使用することによる破損や故障等の小修繕は施設管理者などを基本に、設置者と管理者で協議・調整を行いながら、計画的な施設整備に取り組んでいる。
なお残る課題・問題点	◆会館の運営は、府民財産の有効活用を図る観点に立ち、広大な展示会場の価値を生かした機能の発揮が重要。また、景気動向、自然災害や感染症の流行など社会経済情勢と相関の関係で推移していることから、社会の動向を注視した運営が重要。加えて、改正公益法人法（令和7年4月施行）に示された、有事に備えた強固な財政基盤保有の法人経営が必要。
府民サービス等改革検討委員会による改善意見等	□独立採算による適切な運営が進められている。 □産業情報及び技術の交流を図り、京都府経済の振興に寄与する場としての機能を果たしている。 □景気や社会情勢の影響を受けやすい施設のため、時代に合った経営戦略が求められる。 □施設の老朽化に伴う長寿命化対策も計画的に実施していく必要がある。
京都府の検証結果及び対応方向	継 続 ＜改善方策＞ ◎京都府民の財産である施設の有効活用に努め、独立採算による経営を維持・継続するとともに、計画的な修繕など、長寿命化対策の中長期的な戦略を検討すること。 ＜今後の対応＞ ○府民の財産である施設の有効活用を図るという観点に立ち、社会経済動向を注視した管理者による安定的、効率・効果的な事業運営を維持・継続するとともに、設置者による施設の長寿命化に向けた戦略的な改修計画を検討する。